

サイクリングロード計画 ～つないで守る明るい浜～

愛媛大学工学部環境建設工学科大気水環境研究室
木原拓海 拝師涼太 大原英人 小原卓 粕谷成貴 堀太成 御船佑哉

まちの概要

愛媛県西予市明浜町



愛媛県西予市明浜町は、愛媛県西南部に位置する、東西14.1kmのリアス式海岸に沿った細長い帯状の町で、人口約3250人を抱えている。田之浜、宮野浦、高山、狩浜、渡江、俵津の6地区を中心に産業が発展している。



まちの魅力

■ 豊かな自然



段々畑
広大な斜面に広がる段々畑は、春に菜の花が咲き誇り、秋にみかんが実る



大崎鼻公園
250度の広さを展望することができる、宇和海に突き出た岬「大崎鼻公園」

■ 様々な特産品



ちりめん井
宇和海で獲れた明浜名産のちりめんをふんだんに使った海の幸のどんぶり



みかん
段々畑で太陽の光と潮風を受けて育ち、コクと酸味のバランスがとれた明浜みかん

まちの課題

■ 町全体での連携が取れていない

主要6地区それぞれで普段の付き合いがあまりないため、災害時に**協力体制をとるのが困難**である。

■ 災害時の孤立

南は海、北は山に囲まれている。また主要な道は災害時に寸断の危険があり、外部と**ライフラインが途切れてしまう**ことが考えられる。

■ 避難経路が寸断のおそれ

いくつかの地域では、避難所までの道が住宅の合間の細い道で、道幅は人が一人通れる程度しかないため、災害時に**寸断される**おそれがある。また、空き家が多く災害時の避難経路寸断は大きな課題となる。



ヒアリングの様子

- ・他の地区の協力が必要
- ・西日本豪雨の時に道が寸断された
- ・地区ごとに防災意識に差がある



寸断の恐れがある小道

サイクリングロード計画

「まち全体で強固な道路ネットワークを」

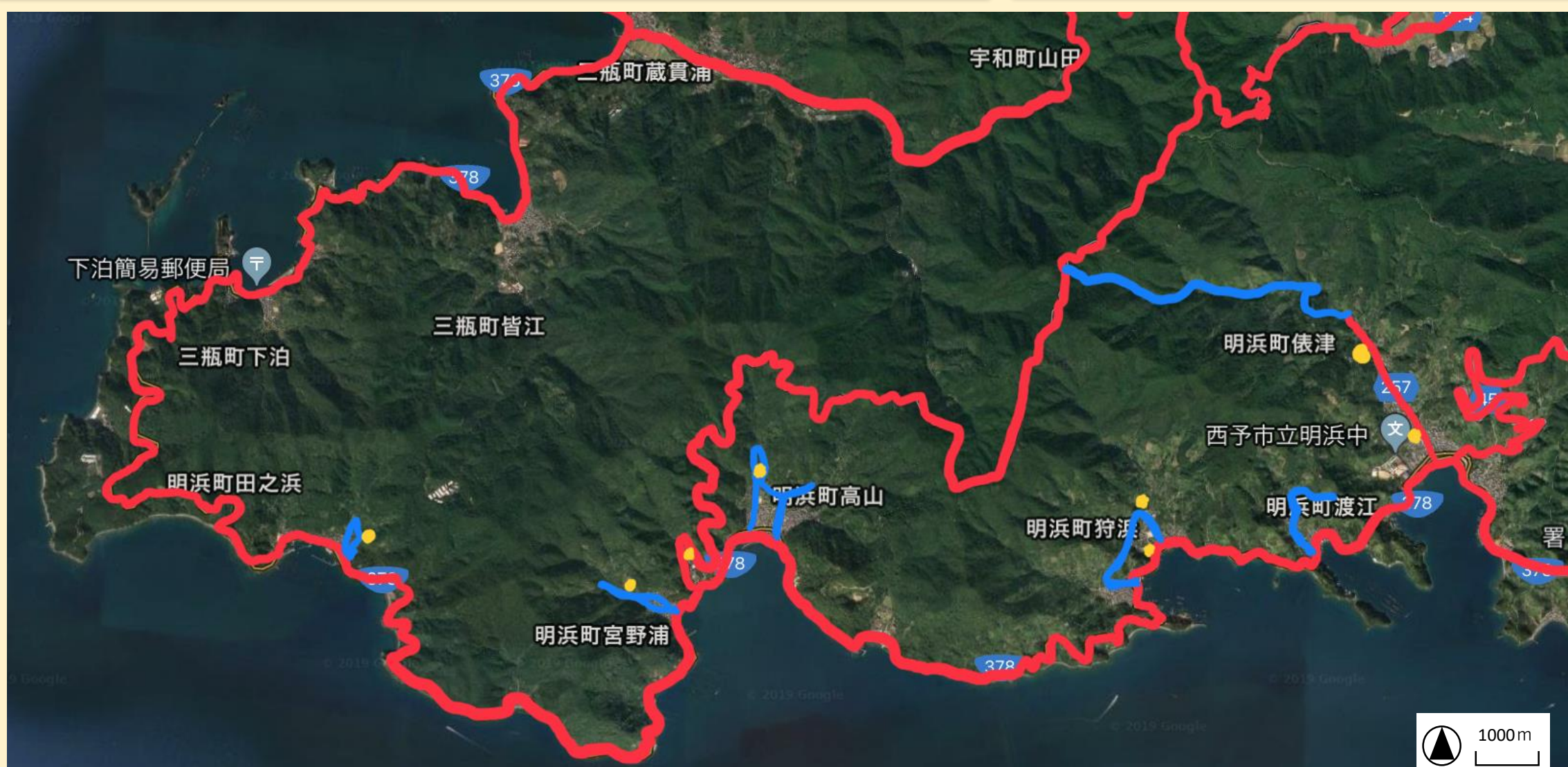
サイクリングロードとして、既存の道の補強・整備する。また、住民の声をもとに、災害時に危険性がある箇所、日常時に利便性の向上が期待できる箇所には新たな道を提案する。

「まちの魅力を活かす」

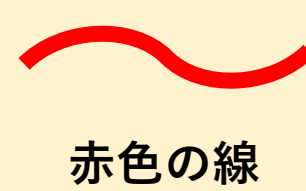
サイクリングロードでは、豊かな自然あふれる景色を堪能することができる。また各地区に休憩所を設置することで明浜ならではの特産品も味わえる。さらにそれらの休憩所は災害時に新たな避難場所、備蓄として機能させる。

「愛媛といえばサイクリング」

「しまなみ海道」をはじめ、数々のサイクリングスポットをもつ愛媛県は、サイクリングで観光振興や地域活性化を目指している。また、自転車を単なる移動手段だけではなく、スポーツやレジャーでの活用を楽しむ「自転車新文化」を広く全国に発信している。

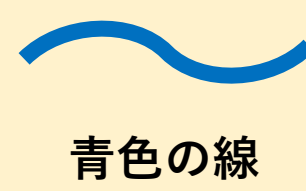


私たちが提案する「サイクリングロード」



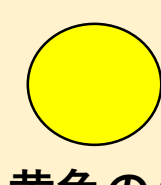
赤色の線

現在運用中の道路で、整備が行き届いていない災害時に寸断され利用できなくなる恐れがある補強・整備を行い明浜町のネットワーク強化を図る



青色の線

現在、ほとんどの道で車が通れない日常時の利便性の向上が期待できる災害時は避難道として機能する



黄色の点

新たに提案する諸施設 例：カフェ、宿泊施設
日常時は休憩所、災害時は避難所として機能する
空き家の改修につながる

サイクリングロード計画の効果

◆ 災害に強いまちづくり

- ◆ 明浜全体にある「ライフラインの寸断」という問題の解決を図れる。その中で地域間の結びつきを強くし、明浜全体の連携を高めていくことができる。
- ◆ サイクリングロードとして道を決定するため維持管理がなされ、災害時にも避難道として機能しやすくなる。

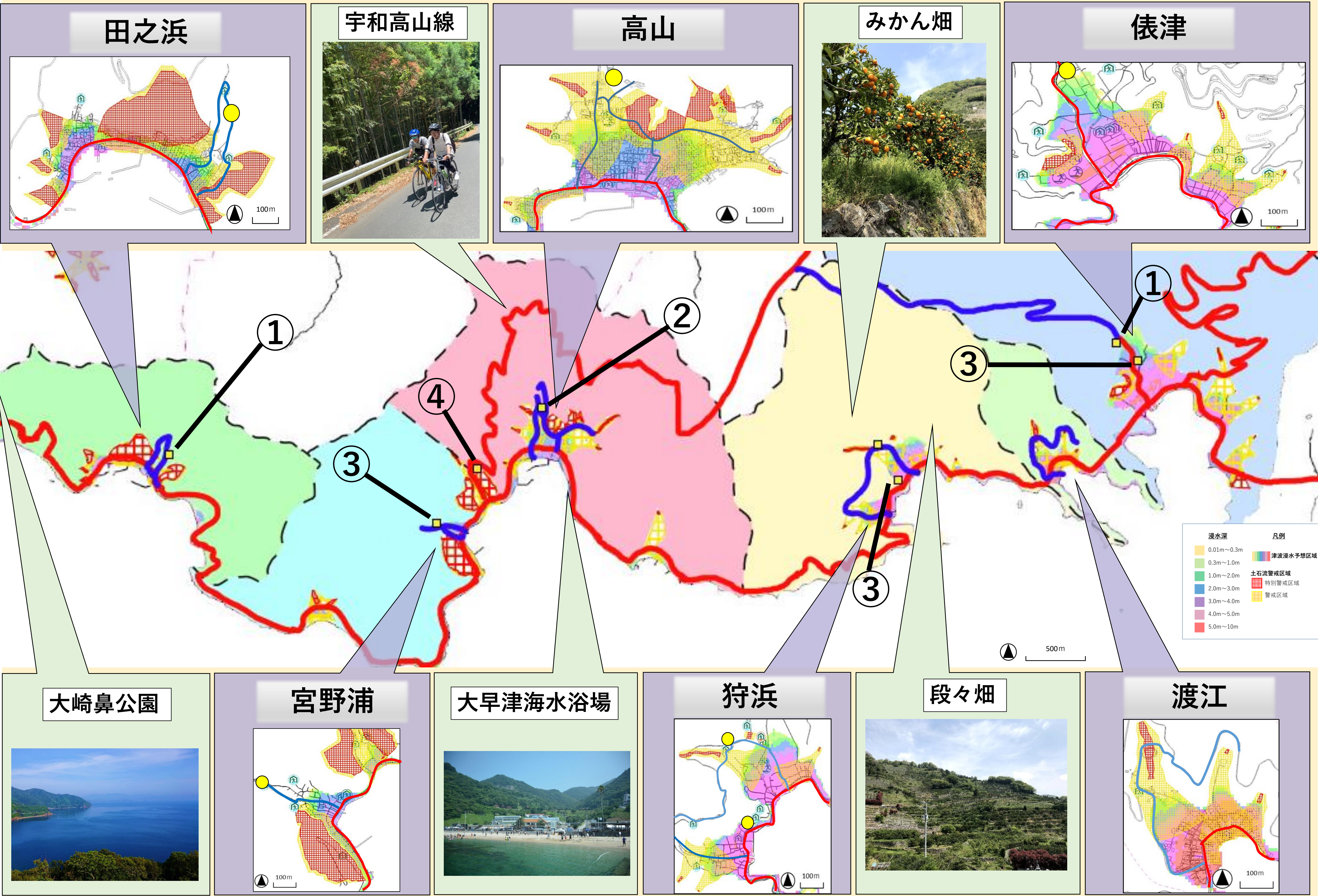
◆ 産業・観光の推進

- ◆ 特産品の売り場を設けることによって、明浜の魅力を知ってもらいつつ経済・産業の発展につながる。
- ◆ サイクリングを通して、明浜の風光明媚な景色を味わえるとともに、観光地としての可能性をのぼす。

◆ 防災・減災に向けた取り組み

- ◆ ワークショップを開催し、災害のリスクおよびその対策について住民の方々に考えてもらう。
- ◆ 道の整備により避難時に車による避難という新しい選択肢を増やすことにつながる。

サイクリングロード計画の詳細



① カフェの設置

日常時には住民の憩いの場、サイクリストの特産品の販売場所として機能する。

空き家の改修によって**災害時**の倒壊による道の寸断、延焼を未然に防ぐことにつながる。また、高台に設置することで、避難所、備蓄としても効果を発揮する。



カフェイメージ図

日常時の効果

災害時の効果

② スーパー の設置	・明浜の中心に置くことで明浜地域間の交流が促される ・サイクリストが来やすい環境になる	・災害時他地域から人が流入してきたときの必需品を補える ・食料の心配が少なくなる
③ 神社の補強	・歴史や伝統の継承につながる	・一時避難場所として安心して使えるようになる ・備蓄の保存場所として機能する
④ 宿屋の設置	・サイクリストの宿泊を支える ・新たな雇用を生み出す	・生活に必要なものがそろうため避難場所として適切である

サイクリングロード実現に向けて

ワークショップ

各地区5回ほどのワークショップを開催し、地域に起こりうる課題や対策、事前復興について住民の方々と一緒に考える。（現在進行中）

計画の提案

ワークショップ参加者に向けて実際に計画を提案し、実現を目指す



ワークショップのようす